

（話題提供）グリーンインフラ活用について

2025年6月6日



東急不動産ホールディングス

グループサステナビリティ推進部 企画推進室 部長 松本恵

WE ARE GREEN

価値を創造し続ける企業グループへ

1. 当社の取組

1950～



東急不動産設立
(1953)



グループの原点
(1918 田園調布)

1980～



自然と調和する街づくり
(1982～ あすみが丘)



環境保全型リゾート
(1984 パラオ・シフィックリゾート)



環境理念策定
(1998)

2000～

・ 京都議定書 (1997)
・ 環境省発足 (2001)



環境共生住宅
(1994～ 季美の森)



COP10 生物多様性
交流フェア参加
(2010)

2010～



生物多様性保全
(2012 東急プラザ表参道原宿)



再生可能エネルギー事業
(2014～)

ReENE



東急不動産HD設立
(2013)

・ パリ協定
SDGs
(2015)



SBT認定取得 (2021)

2020～

・ 日本政府
2050年カーボンニュートラル宣言
(2020)



スマートシティ
(2020 東京ポートシティ竹芝)
・ 2022 緑の都市章
・ 2023 脱炭素都市づくり大賞
・ 2025 TSUNAG 3スター



Shibuya Sakura Stage
ほか広域渋谷圏開発開業
(2023～)



国内業界初賛同
(2019)



要件達成 (2022)



TNFDレポート開示
(2023)

誰もが自分らしく輝ける未来へ

WE ARE GREEN

まちづくりからライフスタイル創造、そして環境先進へ。

絶えず進化してきた私たちは知っている。

未来は、人の想いで切り拓かれていくことを。

あふれる人財のエネルギーで、インパクトを起こそう。

一人の“好き”が、世界を動かすきっかけになる。

ディープテックやスペクタクルの躍動を、渋谷から世界へ。

GXビジネスは、環境と社会の未来をリードする存在へ。

地域の魅力はグローバルニーズと共鳴し、もっと豊かに。

さあ、クリエイティブなカルチャーで夢をカタチにしよう。

グループが描く多彩なグリーンの輝きは、

未来をつくるプレミアムな価値になる。



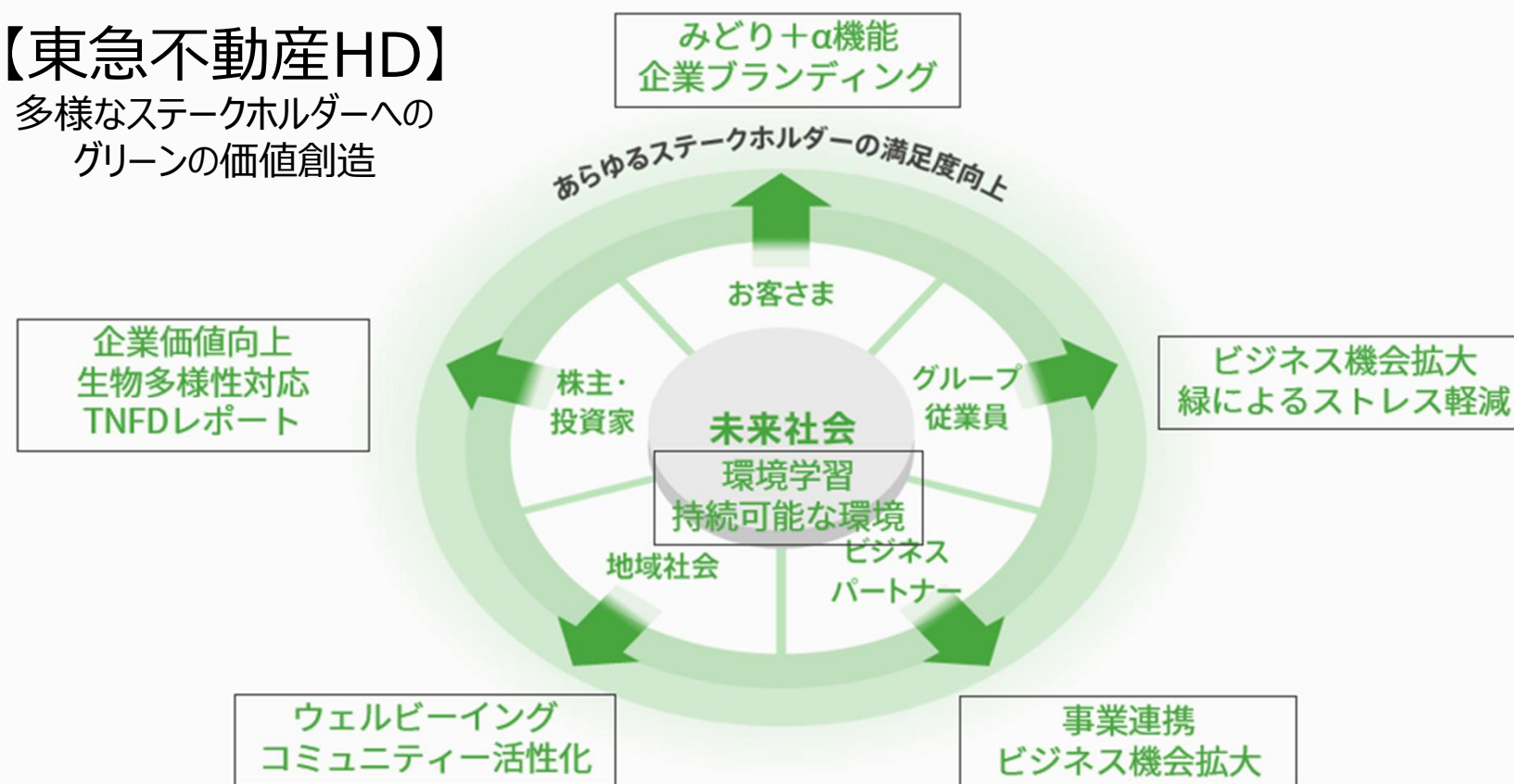
多様性を有機的なビジュアルで表現

グリーンインフラの概念について(整理)① 中間整理案 (P9)

- これまでの取組事例等を踏まえると、グリーンインフラの主な特徴は、「国土・都市・地域づくりへの活用・地域の社会課題の解決」、「多様な効果」、「新たな付加価値を生み出す資本財」、「持続的な維持管理」、「幅広いステークホルダー」の5点に整理することができるのではないか。
- 今後の用語の使い方等は、こうした特徴を踏まえて検討していくこととしたらどうか。

【東急不動産HD】

多様なステークホルダーへの
グリーンの価値創造



非公開スライド

2. 課題と政策要望

課題		期待すること
1	開発・維持管理コスト	安全防災と同扱いの補助金・税制優遇。規制緩和／テナントメリットの創出／技術的コスト削減情報の提供
2	都市部など限定的な敷地面積での緑地創出	隔地貢献（アウトサイドミティゲーション）の導入／都市と地方の緑地交流促進／緑化版ふるさと納税などの新制度
3	データ・可視化	東京都「エコロジカルネットワークマップ」などデータベースを全国展開し、オープンデータとして提供／評価は数値だけでなく多面的な質の評価も必要／単なる目標達成とならないよう数値運用に留意が必要／施策の起点とゴール目標の設定が難しい
4	GI（グリーンインフラ）定義や意義の訴求	GIメリット・分かりやすい定義の普及・情報発信の強化／地表緑化だけでなく、土壌・水循環など多面的視点が必要／「自然共生サイト」等環境省との施策連携／TSUNAG認証はかなり専門的で高レベル